

2024 年度

# 学生生活アンケート報告書

福山大学 学生委員会

## 目 次

はじめに .....	1
1. 学生生活アンケート調査の目的 .....	1
2. 学生生活アンケート調査の項目 .....	1
3. 学生生活アンケート調査の実施方法 .....	2
4. アンケート集計方法 .....	2
5. アンケート集計結果 .....	2
6. 集計結果について .....	14
おわりに .....	15

## はじめに

福山大学学生委員会では学生・大学院生の皆さんのが充実した学生生活を過ごせるように、平成26年度から学生生活全般に関する学生の意見・要望を把握することを目的として「アンケート調査」を2年ごとに実施している。本調査では、合わせてキャンパス施設・交通手段・衛生面等に関する要望や意見も募っており、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症に関連した精神的および健康面の不安感、経済状況における影響、人間関係における影響に関する質問を設けることで、緊急事態下での学生生活の把握に調査を役立ててきた。一方今回は、新型コロナ感染症が5類に移行し、日本の社会全体が以前の生活に戻った状況にあわせ、アンケート内容からコロナ関連の質問を全廃するという大きな変更を加えることになった。また、回答率の向上を図るために、前回までの質問項目を見直し、重複するような項目を整理することで、より回答しやすいアンケートとなるよう改善につとめた。その結果、今回の質問項目は、前回の44問から29問に削減できた。加えて、昨年度に本学学生が関わってしまった違法薬物所持事件に関連し、危険薬物に関する質問項目を新たに設けた。質問項目については、学生委員会研究部門小委員会のメンバーが質問项目的案を作成し、学生委員会の審議・承認を受けたのちに、評議会からの助言も取り入れた形で「2024年度学生生活アンケート」として行った。アンケート実施に際しては、本学のICTサービス部門に依頼して、Cerezoにコースを追加していただいた。

### 1. 学生生活アンケート調査の目的

学修と研究活動を本分とする学生に対し、その円滑な遂行を支える環境を整えることが、大学及び学生委員会の主たる使命である。一方、学生にとって大学環境は、毎日通学し、一日の大半を過ごすことになる日常生活の場でもある。かれらの食事や休憩、サークル活動の場などを確保し、学

生活全般を充実させることなくしては、学生の本分である勉学の充実にも支障をきたすだろう。それゆえに学生委員会は、学修・研究環境だけでなく、学生生活全般の支援や生活環境の保全をよりいっそう進めるために、学部生・大学院生を対象にアンケート調査を行い、学生の生活実態や要望の正確な把握に努めることとした。

本アンケートの目的は、その結果から、より実効的な大学での生活環境の改善案を導き出すことである。

### 2. 学生生活アンケート調査の項目

学生生活アンケートは、長期にわたる学生の動向を観測する目的もあるため、調査項目の多くは前回実施した項目を引き継いでいる。他方で、以下の3点について前回から大幅に変更した。

1. コロナ禍が明けた社会状況に合わせ、新型コロナ感染症に関する質問項目を全て削除した。
2. 取り組みやすいアンケートするために、質問項目数を削減した。特に、前回まで質問していた第2項目までの質問（「2番目多い収入」等）を廃止し、上位二つを解答させる形にすることで1つの問い合わせとした。
3. 「F.回答者の健康と安全」に関して、睡眠・飲酒などの質問を削除し、危険薬物に関する項目を加えた。

以上の方針にしたがって、分類としては、A 学生の情報(質問1～質問4)、B 回答者の考え方と思い(質問5～質問6)、C 回答者の行動と活動(質問7～質問11)、D 回答者の経済状況(質問12～質問14)、E 回答者の時間の使い方(質問15～質問19)、F 回答者の健康と安全(質問20～質問25)、G 回答者の人間関係(質問26～質問27)、H 大学への要望(質問28～質問29)という8分類で合計29項目の質問を設定した。

### 3. 学生生活アンケート調査の実施方法

調査は、令和 6(2024)年度後期に本学に在籍する学部生と大学院生合わせて 3334 名（1 月 31 日時点）を対象者として、令和 6 年 10 月 1 日～令和 6 年 12 月 20 日の間に調査を実施した。また、今回の調査では科目等履修生・交換留学生・研究生を対象から除外している。回答は本学が学修支援ソフトウェアとして導入している Cerezo のアンケート機能を利用して実施した。アンケートのコースニュースでアナウンスするとともに「リマインダー」機能により対象者全員に回答を依頼し、受付期間中、未回答者には何回か「リマインダー」を送り、回答提出をお願いした。当初の回答期限は 12 月 10 日であったが、回答率ができるだけ高くなることを期待してさらに 10 日間延長した。この他、大学院生対象に年明けに 3 週間の回答期間を設けた。

最終的に、総数で 2075 人からの回答を得ることができた。回答期間中に学科等で学生の退学や休学の手続きが進んでおり、これに該当する学生からの回答も集計に含まれている可能性もあるが、今回は、1 月 31 日時点に Cerezo のシステム上で ID が有効になっているものを在籍者とみなすこととした。その結果、回答率は 62.2%（回答者数 2075/在学生数 3334）となった。前回の回答率 42.7% から比べると、20 ポイント近く向上した。

### 4. アンケート集計方法

学生生活アンケート調査の回答結果は、主に、本学 ICT サービス部門にその集計を出力してもらった。そして、そのデータを元に、学生委員会研究部門小委員会メンバー 6 名で分担して学生の活動動向などを分析した。具体的には、Cerezo の回答データから学籍番号や氏名などの個人データを削除したものを、表計算ソフトで質問ごとに分類した。また、複数の選択肢を選ぶことができる質問では、個々の選択肢の合計数だけでなく、

選択のパターンなども集計・分析している。これは前回とおなじである。

学年や学部との相関関係を考察するためのクロス集計は前回までと同様に、今回も行ってはない。部分的クロス集計として前回まで行っていた「飲酒の習慣」についても、今回は質問自体を削除した。

今回、質問を整理・簡素化した代わりに、選択肢の質問項目に添えるかたちで自由記述欄を増加させ、より精密なデータ収集を図った。学生生活の充実度の理由（質問 6）や、行事への参加を促す案（質問 7）がこれに該当する。また、前回からの変更点で、大学への要望はキーワードで分類された選択肢で質問するとともに（質問 28）、自由記述でも回答させた（質問 29）。また危険薬物についても、選択肢の質問だけでなく、身近に経験した薬物の危険を回答させる質問を設けた（質問 25）。このような自由記述によって、質問をスリム化しながら、学生の考えについてのより詳しいデータ収集を心がけた。

特定の個人、団体や部署を中傷または非難するような内容が含まれていると判断できる場合は、できるだけ、特定されないように修正した。また、記述回答に関しては、回答文に明らかな誤字・脱字等がある場合、それを修正して本報告書末尾に付録として添付した。

### 5. アンケート集計結果

以下、設問の内容に基づきグループ別に A から H までに分類し、集計結果をまとめる。

#### A. 回答者の情報

学生生活アンケート調査における基本的な項目として、調査項目 A では、回答者の情報である学部、学年、通学手段、及び住居の形態に関する情報を収集した。

### 質問 1. あなたの所属する学部を教えてください。

回答者が所属する学部の割合を表 1-1 に示す。最も回答者が多かったのは薬学部の 25.3% であり、次いで生命工学部の 22.6%、経済学部の 21.0%、人間文化学部の 15.9%、工学部の 15.2% であった。また表 1-2 に、在籍者数に占める回答者数の割合を学部別に集計した結果を示す。割合が高かったのは薬学部の 85.2% であり、次いで生命工学部の 75.6%、工学部の 54.7%、人間文化学部の 52.8%、経済学部の 48.0% であった。ばらつきはあるが、いずれの学部においても在籍者数の半数程度もしくはそれ以上が回答しており、学部間による極端な差は見られなかった。よって、本調査で得られた回答は特定の学部に偏ったものではなく、全学部において万遍なく回収することができたと言える。

表 1-1 回答者の所属学部

学部	回答数	割合
経済	436	21.0%
人間文化	329	15.9%
工	316	15.2%
生命工	469	22.6%
薬	525	25.3%
合計	2075	100.0%

表 1-2 在籍者数に占める回答者の割合

学部	回答数	在籍者数	割合
経済	436	908	48.0%
人間文化	329	623	52.8%
工	316	578	54.7%
生命工	469	620	75.6%
薬	525	616	85.2%

### 質問 2. あなたの学年を教えてください。

回答者の学年分布は、表 2 に示すように 1 年次生が 27.6% で最も多く、次いで 2 年次生、3 年次生と続き、学年が上がると回答率が下がる傾向にあった。

表 2 回答者の所属学年

学年	回答数	割合
1 年次生	573	27.6%
2 年次生	544	26.2%
3 年次生	469	22.6%
4 年次生	341	16.4%
5 年次生	67	3.2%
6 年次生	73	3.5%
大学院生	8	0.4%
合計	2075	100.0%

質問 3. 通学の交通手段と所要時間を教えてください。ただし、〔1. 徒歩〕は、徒歩のみで大学まで通学する人が該当します。最寄りの駅やバス停まで徒步で行く人等は該当しません。

この質問では、7 つの選択肢から複数の手段を選んでよいので、表 3-1 で割合を計算する際の分母は回答総数の 2075 である。表 3-1 ではスクールバスを利用する学生は 56.3% で、前回（2022 年度）アンケートの 57.9% からやや減少した。自転車を利用する学生は 22.3% であり、前回の 19.1% からやや増加した。自動車を利用する学生も 30.7% と、前回（29.1%）よりも若干増加した。

表 3-1 通学の交通手段

	回答数	割合
徒歩	227	10.9%
自転車	462	22.3%
原付・バイク	175	8.4%
自動車	638	30.7%
公共バス	111	5.3%
スクールバス	1168	56.3%
電車	668	32.2%
合計	2075	100.0%

表 3-2 は組み合わせごとに分けて集計しており、合計数は実人数の 2075 人である。これによれば最も多い交通手段は自動車のみの 22.4% となり、ついでスクールバスのみ 18.1%、スクールバスと

電車 9.3%、自転車とスクールバスと電車 9.2%と続く。スクールバスのみ利用する学生は、おそらく松永駅近辺で暮らしている学生が占めていると考えられる。

表 3-2 通学の交通手段（詳細）

	回答数	割合
自動車	464	22.4%
スクールバス	375	18.1%
スクールバス、電車	192	9.3%
自転車、スクールバス、電車	191	9.2%
徒歩	106	5.1%
原付・バイク	94	4.5%
自転車、スクールバス	92	4.4%
電車	49	2.4%
徒歩、スクールバス	46	2.2%
自転車	45	2.2%
公共バス（中国バス、鞆鉄バス等）	12	0.6%
自動車、スクールバス、電車	45	2.2%
自動車、スクールバス	34	1.6%
徒歩、スクールバス、電車	30	1.4%
公共バス（中国バス、鞆鉄バス等）、スクールバス、電車	29	1.4%
徒歩、自転車、スクールバス、電車	28	1.3%
原付・バイク、自動車	26	1.3%
その他	217	10.4%
合計	2075	100.0%

所要時間については、分単位での自由記述方式としたため、日本学生支援機構（JASSO）の令和4年度学生生活調査結果における分類の仕方と同様に行った。また、「○分～○分」といったように幅を設けた回答については、長い方の時間を採用

した。その結果を表 3-3 に示す。

最も多い回答は「31～60 分」の 31.6%であり、次いで「11～20 分」の 26.8%、「21～30 分」の 18.3%であった。全体の 9 割弱は 1 時間以内の通学時間となっていることが分かった。一方で、1 時間以上かかると答えた学生も 1 割程度存在した。

表 3-3 所要時間

	回答数	割合
0～10 分	245	11.8%
11～20 分	551	26.6%
21～30 分	380	18.3%
31～60 分	657	31.6%
61～90 分	178	8.6%
91～120 分	52	2.5%
121 分以上	12	0.6%
合計	2075	100.0%

#### 質問 4. あなたの居住環境を教えてください。

本学学生の出身地は、広島県や岡山県内が多く、「実家または親類宅に居住」と回答した学生の多くは福山市近隣の市町村から通学していることが推察された（表 4）。一方で、一人暮らしと回答した割合は約 4 割であった。この数値には下宿や学生寮居住者も含んでいることから、県外または大学から離れた地域出身で、自宅からの通学が困難な学生が大多数を占めているものと考えられる。この割合は前回調査（2022 年度）とほぼ同等であった。

表 4 居住環境

	回答数	割合
一人暮らし	835	40.2%
実家、親類宅	1225	59.0%
その他	15	0.7%
合計	2075	100.0%

## B. 考えと思い

この調査項目では、学生が学生生活に期待していることを把握するために、本学学生の価値観や思いを調査した。

### 質問 5. 大学生活において一番大切にしているものは何ですか。

表5にその結果を示す。最も大切にしているものとして「大学での学修や研究」と回答した学生が40.5%であり、最も多かったものの前回2022年度アンケートの48.7%を8ポイント下回った。一方で、「友人関係」と答えた学生は25.3%（前回22.3%）、「趣味や娯楽」は16.5%（前回14.6%）、クラブやサークル等の「課外活動」と回答した学生は5.1%（前回3.4%）であり、いずれも前回の数値を上回った。特に友人関係の伸びが高いのは、前回調査時はコロナ禍であり、外出の規制等によりなかなか友人関係を構築しにくい環境だったのが、2023年5月8日から新型コロナが5類に移行して人との交流が増え、その結果友人関係が最も大切と答えた学生が増えたものと推察された。この傾向は「趣味や娯楽」「課外活動」にも共通しているものと考えられる。

しかしながら、「特にない」と回答した学生が6.8%であり、前回の5.5%よりもやや増えていることから、一定数の学生は大切にしているものを意識できていない、あるいは大切にしたいと思えるものにまで巡り会えていないと思われる。

表5 一番大切にしているもの

	回答数	割合
大学での学修や研究	840	40.5%
課外活動（クラブ、サークル、学友会など）	105	5.1%
友人関係	526	25.3%
趣味や娯楽	342	16.5%
アルバイト	70	3.4%

その他	50	2.4%
特にない	142	6.8%
合計	2075	100.0%

### 質問 6. 授業以外の学生生活の充実度はどれくらいですか。また、よければその理由を教えてください。

質問6では、授業以外における学生生活の充実度について尋ね、その結果を表6-1に示した。なお、授業などの学業活動の充実度については、「学生評価アンケート」で調査しているため、前回調査時と同様に本調査では行っていない。

「とても充実している」「やや充実している」と答えた学生が78.1%となり、前回調査時（78.8%）とほぼ同等の結果となった。一方、「あまり充実していない」「全然充実していない」と回答した学生は6.9%であり、前回調査時（14.2%）より減少していた。前回調査時はコロナ禍であり、入学前に思い描いていたキャンパスライフとはかけ離れた生活が長期間続いていたため充実度を感じられなかつたことが推測される。今回はアフターコロナに実施しており、コロナ禍前の生活にほぼ戻っていることから、充実を感じられない学生が減少した可能性が考えられる。

表6-1 授業以外の学生生活の充実度

	回答数	割合
とても充実	646	31.1%
やや充実	975	47.0%
どちらともいえない	311	15.0%
あまり充実していない	116	5.6%
全然充実していない	27	1.3%
合計	2075	100.0%

表6-2に充実度を選んだ理由に関する自由記述で多く見られた回答を示している。充実度が高いと回答していると思われるポジティブな意見を

検証すると、友達や先輩、仲間と楽しく過ごせていることや、自由度があり自分のやりたいことができていることなどにより、充実度につながっていると回答した学生が多かった。逆に人間関係に問題がある、友達が少ない、精神的な不安を抱えている、勉強量の多さ等により楽しく過ごせず、充実度につながっていないというネガティブな意見もあった。

表 6-2 充実度の理由

<ポジティブと考えられる理由>

友人、仲間、先輩後輩と話したりできているから（同様の意見多数）	したいことができているから（サークル、アルバイト等も含む）（同意見多数）
自由度が高い、自分のために使える時間が多い	アルバイトや趣味、遊びの時間に使っている

<ネガティブと考えられる理由>

課題や勉強量が多い（複数意見あり）
友達が少ない
立地が悪く、周りに遊ぶところがない

### C. 行動と活動

質問6では、本学学生のうち約7割強が「学生生活はとても、または、やや充実している」と回答している。これを踏まえ、学内での活動状況を知るため、大学行事、サークル活動への参加状況、アルバイト経験などについて調査した。

**質問7. 三蔵祭、学長杯争奪スポーツ大会、本学オープンキャンパスなどの大学行事に参加したことありますか。**

三蔵祭や学長杯争奪スポーツ大会、あるいはオープンキャンパスなどの大学行事に「主催者側、選手や発表者として積極的に参加したことがある」の割合が最も高い（表7）。ここに、「見物や

応援等で参加したことがある」の数値を積極的な態度として合算すると、77.1%の学生が行事等に参加している実態として把握できる。前回調査時の64.5%に比べ増加していた。前回調査時はコロナ禍であり、学生が行事等に参加しづらい環境だったのが、アフターコロナとなり人との交流を行うため、行事等に「積極的あるいはやや積極的」に参加する学生が増えたものと推察される。今後、学生の主体性をより育むためには、「主催者側（役員、模擬店等）、選手や発表者として積極的に参加したことがある」の割合を増やすと共に、これまで行事等に「参加したことがない」学生の参加を促すために、広報・周知の形式を工夫する、参加形式の工夫等が求められる。

表7 大学行事への参加

	回答数	割合
主催者側（役員、模擬店等）、選手や発表者として積極的に参加したことがある	859	41.4%
見物や応援等で参加したことがある	617	29.7%
参加したことがない	599	28.9%
合計	2075	100%

**質問8. 学内外のクラブやサークル活動に参加していますか。（下記の選択肢から該当するものをすべて選んでください。）**

「大学内外を問わず、クラブ等には参加していない」学生の割合が58.4%で最も高く（表8）、前回アンケートの63.1%と比較すると約5ポイント減少していた。質問7と同様に、アフターコロナとなつたためクラブやサークル活動への参加率が増えたと推察される。

表8 クラブやサークル活動への参加状況（累計）

	回答数	割合
1.学内のクラブやサークル活動	729	34.2%
2.学外のクラブやサークル活動	93	4.4%
3.学内、学外両方のクラブやサークル活動	65	3.0%
4.いずれにも参加していない	1246	58.4%
合計	2133	100%

質問9. 大学入学後に“アルバイトをしている”、または“アルバイトをした”ことがありますか。

福山大学の学生の 83.9%が何らかのアルバイトに従事している（いた）経験をもっていた（表9）。その中でも、「飲食店でアルバイトしている（した）」経験が 37.5%と最も高く、次いで「販売等のアルバイトをしている（した）」経験が 23.9%となっている。いずれの項目も前回調査時の割合と比較すると変化はなかった。

表9 大学入学後のアルバイト経験

	回答数	割合
1. 家庭教師、学習塾講師等	172	8.3%
2. 販売等	496	23.9%
3. 飲食店	779	37.5%
4. 1~3 以外の軽作業	100	4.8%
5. 重労働	33	1.6%
6. 1~5 以外のアルバイト	161	7.8%
7. したことはない	334	16.1%
合計	2075	100%

質問10. あなたがアルバイトに従事する主な目的は何ですか。

アルバイトに従事する理由は「学費の一部を賄うため」と「生活費を賄うため」の回答の占める割合がそれぞれ 21.3%と最も高く、前回調査時の 7.6%と 14.6%と比べるといずれの項目も割合が

増加していた。一方、娯楽費に含めることのできる「趣味や娯楽の資金にするため」と「旅行の資金にするため」を合わせると数値は 26.4%になり、前回調査時の 40.9%より減少していた（表 10）。

表10 アルバイトに従事する主な目的（累計）

	回答	割合
学費の一部を賄うため	734	21.3%
生活費を賄うため	734	21.3%
サークル活動のため	64	1.9%
趣味や娯楽の資金にするため	566	16.5%
旅行の資金にするため	340	9.9%
ほしいものを購入するため	485	14.1%
社会経験として	422	12.3%
その他	88	2.6%
アルバイトをしたことはない	6	0.2%
合計	3439	100%

質問11. 福山大学キャンパスの中でよく居る場所はどこですか。上位 2 か所まで選んでください。

福山大学キャンパスで最もよく滞在しているのは「教室」で 37.4%であり、前回調査時の 34.6%より増加していた。その次によく滞在しているのは「研究室・ゼミ室」で 14.3%であり、前回調査時の 15.5%よりやや減少していた。「教室」と「研究室・ゼミ室」の割合を合算すると 51.7%となり最もよく滞在している場所として授業関係の場所が選ばれていた（表 11）。多くの学生が授業や実習を受ける時間が大学で過ごす時間の中で最も長いことが推察された。一方、「教室」と「研究室・ゼミ室」以外の場所については前回調査時と大きな変化はなかったが、「教室」と「研究室・ゼミ室」以外の学生食堂やフリースペースに滞在する割合も高かった。

表11 学内で一番よく滞在する場所（累計）

	回答数	割合
教室	1292	37.4%
研究室・ゼミ室	494	14.3%
図書館	300	8.7%
1号館学生ホール	228	6.6%
サークルやクラブの練習場	142	4.1%
学生食堂	413	11.9%
学内のフリースペース	453	13.1%
その他	136	3.9%
合計	3458	100%

#### D. 経済状況

前回と同様に、経済状況（収入および支出）について調査した。

質問 12. 1か月の収入の中で多い項目は何ですか。上位2つを選んでください。

質問9の結果では、8割以上の学生がアルバイトをしている（いた）。1か月の収入で多いのはアルバイトが46.0%で最も多く、前回調査時の33.1%より増加していた。また家庭からの給付および奨学金はそれぞれ28.0%と21.8%であり、前回調査時の26.3%と19.6%よりやや増加していた。アルバイトの収入がかなりある現状が見て取れる（表12）。

表12 1か月の収入で多い項目（累計）

	回答数	割合
家庭からの給付	817	28.0%
奨学金	634	21.8%
アルバイト	1339	46.0%
資産運用、YouTube等の広告収入	18	0.6%
その他の収入	105	3.6%
合計	2913	100%

質問 13. 1か月の収入はどれくらいですか。家庭からの給付を含めて回答してください。

表13の「1か月の収入額」を見ると、5万円から

10万円未満が最も多かった。2万円未満という回答が7.8%あるが、前回調査時の18.8%と比べると減少していた。

表13 1か月の収入額

	回答数	割合
2万円未満	161	7.8%
2万円～5万円未満	515	24.8%
5万円～10万円未満	905	43.6%
10万円～15万円未満	190	9.2%
15万円以上	38	1.8%
回答したくない	266	12.8%
合計	2075	100%

質問 14. 1か月の支出の中で多い支出は何ですか。上位2つを選んでください。

住居費が12.6%、食事や衣類などが36.8%と生活必需品の支出が多いことがわかる（表14）。前回調査時の住居費13.8%、食事や衣類など36.6%と変わりはなかった。それ以外では、娯楽費が30.9%であり、前回調査時の25.0%と比較すると5ポイント増加していた。前回調査時のコロナ禍の影響がなくなり、趣味や交際費に支出する割合が増えていると推察される。

表14 1か月の支出で多い支出

	回答数	割合
住居費（アパート等の家賃）	420	12.6%
食事や衣類等の購入	1235	37.1%
修学に必要な経費（授業料は含まれない）	141	4.2%
サークル等の活動に必要な経費	48	1.4%
公共料金（水道、電気、ガスの使用料）	168	5.0%
通信費（携帯電話、固定電話、郵便の送料等）	125	3.8%
娯楽費（趣味、交際費を含む）	1030	30.9%
その他	163	4.9%
合計	3330	100%

## E. 時間の使い方

ここでは、生活における活動の種類による時間の使い方がどうなっているのかを調査した。学生の本分である学修とそれに必要な通学、それ以外のサークル活動やアルバイトなどの割合を知ることは、学生指導の重要な情報であると考えられる。

### 質問 15. 平日の帰宅時間は何時頃ですか。

平日の帰宅時間は何時頃かの調査結果を表 15 に示す。回答者の 62.3%が午後 7 時までに帰宅していると答えており、前回 (70.1%) よりも少なくなったが半数以上が午後 7 時までに帰宅しているという結果であった。一方で、午後 9 時以降に帰宅していると回答している者も 19.4%おり、前回の 12.4%から増加した。「翌日の午前 1 時以降に帰宅している」と回答したものはほぼ同程度であった。前回調査と比較すると全体的に帰宅時間が遅くなっている。前回調査でもコロナ禍の影響はほぼなくなり一部の学生の帰宅時間が遅くなっていた。今回の調査でも学生の外出機会が増え学生では帰宅時間が伸びたことにつながったものと考えられる。

表 15 平日の帰宅時刻

	回答	割合
概ね午後 5 時までに帰宅	489	23.6%
午後 5 時～午後 7 時の間に	804	38.7%
午後 7 時～午後 9 時の間に	379	18.3%
午後 9 時～午後 11 時の間に	302	14.6%
午後 11 時～翌日の午前 1 時の	91	4.4%
翌日の午前 1 時以降に	10	0.5%
合計	2075	100.0

### 質問 16. 学内外のクラブやサークル活動に、1 週間でどれくらいの時間を充てていますか。

1 週間のサークル等の活動時間に関する調査結果を表 16 に示す。最も多かったのは「クラブ等に所属していない」であり、58.0%であった。前回調査ではクラブ等に所属していないと回答し

た者が 66.0%であり、前回よりも減少した。前回調査がコロナ禍の影響を受けた結果となっていたが、今回の調査ではコロナ禍の影響もなくなりサークルやクラブ活動に加入する学生が増加したと考えられる。

表 16 一週間のサークル等の活動時間

	回答数	割合
30 時間以上	38	1.8%
20 時間から 29 時間	34	1.6%
10 時間から 19 時間	132	6.4%
1 時間から 9 時間	343	16.5%
1 時間未満	96	4.6%
活動実績はほとんどない	228	11.0%
クラブ等に所属していない	1204	58.0%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

### 質問 17. 授業以外（例：ゲーム、娯楽目的の動画視聴等）に一日あたりインターネットや SNS（Line、Instagram、YouTube など）をどれくらい利用していますか。

一日のインターネットや SNS（Line、Instagram、YouTube など）の利用時間に調査結果を表 17 に示す。最も多かった回答は「3 時間以上」で 53.4%となり前回調査での 34.3%より大きく增加了。また、前回調査で「利用していない」と回答したのは 2.6%であったが今回の調査では 1.5%と少なくなった。1 時間以上インターネットや SNS を利用している学生の割合は 95%とほとんどの学生がインターネットや SNS を利用していることがわかる。

表 17 一日の SNS やインターネットの利用時間

	回答数	割合
利用していない	31	1.5%
1 時間未満	72	3.5%
1 時間以上 2 時間未満	353	17.0%
2 時間以上 3 時間未満	510	24.6%

3時間以上	1109	53.4%
無回答	25	1.6%
合計	2075	100.0%

質問 18. 福山大学にどれくらいの時間滞在していますか。

福山大学に滞在している時間に関する調査結果を表 18 に示す。「4 時間～6 時間未満」が最も多く 30.9%で、次に多かったのは「6 時間～8 時間未満」で 29.0%であった。つまり、滞在時間が 4 時間～8 時間未満で 60%と半数を超える結果となった。授業時間を考えると多くの学生は、授業が終わるとすぐに帰宅しているものと考えられる。

表 18 福山大学での滞在時間

	回答数	割合
2時間未満	76	3.7%
2時間～4時間未満	272	13.1%
4時間～6時間未満	642	30.9%
6時間～8時間未満	601	29.0%
8時間～10時間未満	277	13.3%
10時間以上	207	10.0%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

質問 19. アルバイトに、一週間でどれくらいの時間を充てていますか。

一週間でのアルバイトに充てる時間の調査結果を表 19 に示す。前回踏査では、平日と土日に分けてアルバイトに充てる時間を調査していたが今回は平日、土日関係なく一週間に充てたアルバイトの時間について質問している。今回の調査では、「1 週間当たりでは 10 時間以上～20 時間未満」と回答した学生が最も多く 27.2%であった。前回調査では、平日と土日に分けて調査を実施し

ていたが最も多かったのは「平日に 10 時間～20 時間」の 25.1%と前回と同様な結果であった。次に多かったのは「1 週間当たりでは 10 時間未満」で 13.7%となった。多くの学生が一週間あたりアルバイトに費やす時間は 20 時間未満であることがわかる。「平日のアルバイトをしたことがない」と回答した割合は今回の調査は、21.9%であったが前回調査では 9.4%と平日にアルバイトをしていない学生の割合は増加した。

表 19 一週間でアルバイトに費やす時間

	回答	割合
平日のアルバイトはしたことない	455	21.9%
1 週間当たりでは 10 時間未満	284	13.7%
1 週間当たりでは 10 時間以上～20 時間未満	564	27.2%
1 週間当たりでは 20 時間以上～30 時間未満	178	8.6%
1 週間当たりでは 30 時間以上	42	2.0%
週末及び休日のアルバイトをしたことない	99	4.8%
週末及び休日に、0～5 時間未満	64	3.1%
5 時間以上～10 時間未満	175	8.4%
10 時間～15 時間未満	137	6.6%
15 時間以上	77	3.7%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

#### F. 回答者の健康と安全

近年、地震、水害等など大規模災害が多く発生している。本学では、全学で避難訓練を実施している。また、毎年 4 月と 11 月に健康診断を実施し、所見のある学生の割合は多くはないが、一定の割合で存在し、健康指導を実施している。2024 年度より新年度のオリエンテーション時に大麻や覚せい剤等の危険薬物などについて「薬物乱用防止研修」を実施している。

質問 20~22 では、学生の生活習慣、心身の健康を維持する方法について調査し、質問 23~24 では、大麻や覚せい剤等の危険薬物に関する調査を行った。

#### 質問 20. 地震、水害等の大規模災害が発生したときの家族との連絡方法を決めていますか。

大規模災害時の家族との連絡方法についての調査結果を表 20 に示す。今回の調査で「連絡方法を決めている」と回答した割合が 33.2% に対して、前回調査では 30.2% と「連絡方法を決めている」割合は増加した。「連絡方法を決めておく必要がない」と回答した割合は前回調査では 4.1% であったが今回の調査では 2.7% と減少した。身近での大規模災害が多く発生していることもあり防災への意識が高まっていると思われる。

表 20 災害時の家族との連絡方法

	回答数	割合
連絡方法を決めている	689	33.2%
まだ決めていない	1053	50.7%
相談したことがない	276	13.3%
必要はないと考えている	57	2.7%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

#### 質問 21. 学生生活の中で、悩みはありますか。

学生の悩みについて質問した調査結果を表 21 に示す。最も回答が多かったのは「悩み無い」の 35.2% であった。悩みの中では「悩みの中では「将来の進路のこと」を回答した割合が 28.8% と多かった。前回調査では、最も回答が多かったのは「将来の進路のこと」の 44.4% で 2 番目は「悩みなは無い」の 32.2% であった。前回調査時はコロナ禍の影響が残っており将来の進路について不安に思っている学生の割合が多かったと思われる。

表 21 学生生活での悩み

	回答数	割合
悩みなは無い	730	35.2%

学修のこと	332	16.0%
サークル活動のこと	23	1.1%
将来の進路のこと	597	28.8%
家庭のこと	25	1.2%
経済的なこと	129	6.2%
自分自身の健康のこと	65	3.1%
人間関係のこと	122	5.9%
その他のこと	52	2.5%
悩みは無い	730	35.2%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

#### 質問 22. 悩みの相談相手は身近にいますか。

悩みごとの相談相手が身近にいるかについての調査結果を表 22 に示す。「はい」と回答した割合は 72.3% と最も多かった。しかし、「いいえ」と回答した割合は 9.6%、「どちらともいえない」と回答した割合は 18.0% となった。前回調査とは設問項目が異なり直接比較することはできないが、前回調査で悩みの対処法として「自分で考える」と回答した割合は 49.6% であった。今回の調査での「身近に悩みの相談相手がいない」と解答した割合 9.6% と大きく減少することとなった。

表 22 身近の悩みの相談相手

	回答数	割合
はい	1501	72.3%
いいえ	200	9.6%
どちらともいえない	374	18.0%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

#### 質問 23. 大麻や覚せい剤等の危険薬物による健康被害を知っていますか。

本学では 2024 年度より新年度のオリエンテーションで「薬物乱用防止研修」を実施している。大麻や覚せい剤などの危険物の健康への被害についての調査結果を表 23 に示す。大麻や覚せい剤等の危険薬物による健康被害について「よくしている」と「まあまあ知っている」合わせて

89.7%と多くの学生が健康被害について認識していることがわかる。しかし、「あまり知らない」「全く知らない」と回答した学生の割合は、合わせて4.0%と少数であるが大麻や覚せい剤などの危険物の健康への被害について認識していない学生がいた。このため、2024年度から実施している「薬物乱用防止研修」は今後も必要である。

表23 危険薬物による健康被害

	回答数	割合
よく知っている	1388	66.9%
まあまあ知っている	474	22.8%
少し知っている	129	6.2%
あまり知らない	33	1.6%
全く知らない	51	2.5%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

質問 24. 身近な人と大麻や覚せい剤等の危険薬物に関する話をしますか。

「身近な人と大麻や覚せい剤等の危険薬物に関する話をしますか」についての調査結果を表24に示す。「全くしない」が最も多く44%となり、「あまりしない」と合わせると75.4%となり多くの学生は大麻や覚せい剤等の危険薬物の話をしていないことがわかる。

表24 危険薬物に関する会話

	回答数	割合
よくする	78	3.8%
時々する	196	9.4%
少しだけする	237	11.4%
あまりしない	652	31.4%
全くしない	912	44.0%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

質問 25. 大麻や覚せい剤等の危険薬物について、身近で危険を感じたことはありますか。

大麻や覚せい剤等の危険薬物について身近で危険を感じたことがあるかについての調査結果を表25に示す。「ない」と回答した割合は96.6%と多くの学生は身近に危険を感じていなかった。一方、3.7%と少数であるが「ある」と回答した学生もいた。「ある」と感じた学生の理由を確認するとサッカーチームの事件の影響が大きいことがわかった。

表25 危険物での身近な危険

	回答数	割合
ある	71	3.4%
ない	2004	96.6%
無回答	0	0.0%
合計	2075	100.0%

#### G. 回答者の人間関係

良好な人間関係は充実した学生生活を送る上で重要である。質問26、27では学生の人間関係について調査した。

質問 26 大学での友人について教えてください。

本質問では、友人との関係について尋ねた（複数回答可、表26-1: 複数回答の累計；表26-2: パターン別）。その結果、表26-1に示すように、62.7%の学生が何でも話せる友人がいることが分かった。これは、前回の48.6%と比較して14.1%向上しており、新型コロナ感染症の影響から人間関係の構築環境が回復している傾向であることを示唆している。一方で、5.6.の回答者も前回と比較して増加しており、それぞれ14.3%（前回: 5.7%）、8.5%（前回: 4.3%）であった。そして、「2.趣味や話題を共有できる友人がいる」の回答者割合は前回より大きく減少（前回: 63.2%→今回: 37.9%）し、「4.大学の中で話をする人は少ない」回答者の割合は大きく増加（前回: 13.4%→今回: 59.6%）していた。これらの結果は、授業のオンラインから対面への完全移行が学生の意識変化や交流の在り方に大きく影響を及ぼした可能性を示唆している。

表 26-1 大学での友人関係(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. 何でも話せる友人がいる	1301	62.7%
2. 趣味や話題を共有できる友人がいる	787	37.9%
3. 試験や学習などで困ったときに、相談できる友人がいる	1247	60.1%
4. 大学の中で話をする人は少ない	1237	59.6%
5. 人付き合いが苦手で大学の中ではほとんど誰とも話さない	297	14.3%
6. ひとりでいることが好きなので、友人は必要ない	176	8.5%

表 26-2 大学での友人関係(パターン別)

パターン	回答数	割合
1,2,3,4	335	16.1%
1	225	10.8%
3	151	7.3%
1,3,4	145	7.0%
3,4	135	6.5%
6	129	6.2%
4	127	6.1%
1,4	125	6.0%
1,2,3,4,5	125	6.0%
1,3	105	5.1%
2,3,4	60	2.9%
それ以外	473	19.9%
合計	2075	100.0%

質問 27 あなたの本学教員に対する印象について教えてください。

本質問では、本学の教員に対する印象を尋ねた(複数回答可、表 27-1: 複数回答の累計; 表 27-2: パターン別)。その結果、表 27-1 に示すように、「1. 尊敬できる教員がいる」の回答割合が 33.1% と前回と比較して 5.1% 増加した結果となった。一方、「5. 教員との関わりは特にない」

「6. 教員とコミュニケーションの取り方がわからない」の回答者の割合も前回と比較して増加しており、それぞれ 12.5% (前回: 11.7%)、28.4% (前回: 24.3%) であった。授業がオンラインから対面へ完全移行してもなお、学生教員間のコミュニケーション機会に課題を抱えていることが分かった。そのため、教員から積極的にコミュニケーションをとることや、学生教員間での交流機会を増やすなど、改善を図ることが大切である。

表 27-1 本学教員の印象(複数回答の累計)

	回答数	割合
1. 尊敬できる教員がいる	687	33.1%
2. 理解してくれる教員がいる	474	22.8%
3. 相談できる教員がいる	831	40.0%
4. 教員との関係で困っていることがある	75	3.6%
5. 教員とコミュニケーションの取り方がわからない	260	12.5%
6. 教員との関わりは特にない	590	28.4%

表 27-2 本学教員の印象(パターン別)

パターン	回答数	割合
6	513	24.7%
3	397	19.1%
1	292	14.1%
1,2,3	167	8.0%
2	139	6.7%
5	137	6.6%
1,3	108	5.2%
2,3	85	4.1%
1,2	45	2.2%
5,6	34	1.6%
3,5	21	1.0%
それ以外	137	6.6%
合計	2075	100.0%

#### H. 大学への要望

本学の施設・設備に対する学生の要望を知るために、質問 28 では改善を必要とする事項を施設・

設備別に尋ねた。また、質問 29 では質問 28 について自由記述で具体的に回答を求めた。

**質問 28 福山大学の施設や設備等について、改善が必要と感じることを教えてください。**

**質問 29 項目 28 の回答で挙げていただいた施設や設備等の改善について、それを具体的に教えてください。**

「スクールバスの運行」について、改善の要望者割合が 49.1%と前回の 73.9%と比較して大きく減少した(表 28)。一方で、未だ半数近く要望者が存在しており、全項目の中で最も多い回答割合であることから、学生の満足度を高めるためにはスクールバスの運行対策が求められる。具体的な要望の内容については、付録の自由記述などを参照してほしい。特に、「授業開始時間や電車に合わせた運行本数を増加してほしい」、「バスの中で立つことが危ないため立つ人が出ないような運行設計にしてほしい」、などの要望が散見された。そのほかの項目については、今回「改善を設定しておらず、いずれかの項目を回答することが求められた影響か、軒並み要望者の割合が増加している。その中では、教室の設備に関する要望が多く、特に「Wi-Fi が場所によっては繋がりづらい」という意見が散見された。関係部署と連携して、可能な限り改善することが望まれる。質問 29 で具体的な要望を記した回答は 1150 件と半数以上であった。

**表 28-1 大学の施設・設備の改善への提言  
(複数回答の累計)**

	回答数	割合
1. スクールバスの運行について	1018	49.1%
2. 教室の設備（音響黒板等）について	631	30.4%
3. 食堂や喫茶の設備や利用時間について	339	16.3%
4. 食堂や喫茶のメニュー・価格について	494	23.8%

5. 売店やコンビニの品揃えや利用時間について	397	19.1%
6. 図書館の蔵書について	65	3.1%
7. 図書館の利用時間や利用方法について	99	4.8%
8. スポーツ関係の施設・設備について	213	10.3%

**表 28-2 大学の施設・設備の改善への提言**

(パターン別)

パターン	回答数	割合
1	579	27.9%
2	318	15.3%
4	169	8.1%
5	112	5.4%
1,2	100	4.8%
8	94	4.5%
3	82	4.0%
1,4	49	2.4%
1,5	37	1.8%
1,3	28	1.3%
4,5	28	1.3%
7	27	1.3%
それ以外	452	21.8%
合計	2075	100.0%

## 6. 集計結果について

今回の調査では、前回と比較して、学生の対人意識や行動に変化が見られた。この要因として、令和 4 年度の前回調査以降、授業がオンラインから対面へ完全移行した影響が考えられる。

例えば、質問 16「学内外のクラブやサークル活動に、1 週間でどれくらいの時間を充てていますか。」では、クラブ活動に参加している学生の割合が前回の 19.9%から 30.7%へと 10%以上増加した。これは、大学生活の完全対面化により、クラブ活動がより活発に行われるようになった結果と考えられる。一方、質問 26「大学での友人について教えてください。」では、何でも話せる友

人や学習に関わる友人がいると回答した学生が増加したものの、趣味や話題を共有できる友人がいる割合は減少し、大学内で話せる友人が少ないと答えた学生の割合は大幅に增加了。対面授業が再開したこと、交友関係の一部構築に負の影響が及ぼされたことが示唆される。理由として、これまで接点のなかった学生と交流する機会が増えたことが関係している可能性が考えられる。

また、今回の調査では、2024年1月に発覚した福山大学サッカーチームによる大麻取締法違反事件を受け、大麻や覚せい剤などの危険薬物に関する意識調査を実施した。その結果、質問23「大麻や覚せい剤等の危険薬物による健康被害を知っていますか。」では、89.7%の学生が健康被害について認識していると回答した。一方、質問24「身近な人と大麻や覚せい剤等の危険薬物に関する話をしますか。」では、75.4%の学生が薬物について話題にすることがないと答えている。これらの結果を踏まえ、再発防止のためには、2024年度に実施した「薬物乱用防止研修」のように、薬物の危険性について学ぶ機会を定期的に設け、事件の風化を防ぐことが求められる。

今回も前回と同様に回答に要した時間についても集計した。その結果、表29のとおり、10分以内に回答を終えた割合は77.1%に達した。この結果は前回調査の66.1%と比較して10%以上も向上しており、質問数を44から29に削減したことが回答時間の短縮に寄与したと考えられる。なお、3時間以上を要した3名（324時間31分12秒、11時間7分3秒、4時間24分45秒）を除いた場合の回答時間の平均は14分4秒（前回：12分37秒）、中央値は9分0秒（前回：7分55秒）であった。前回調査と比較すると全体として回答時間がやや長くなる傾向が見られた。理由として、質問29における自由記述回答者の割合が増加したことが挙げられる（今回：55.4%、前回：31.6%）。一方で、回答者の大半が20分以内に回答を終えており、負担はそれほど大きくなかったと考えられる。

今回の調査では、回答率が42.7%から62.2%へと飛躍的に向上し、すべての設問を必須としたた

め、無回答の発生はなかった。ただし、質問項目28「福山大学の施設や設備等について、改善が必要と感じることを教えてください。」では、特に要望がない場合でも何らかの選択が必須であったため、「特にないが、選択する必要があった」とのコメントが散見された。このため、前回調査で設定していた「改善を要することは思い浮かばない」といった選択肢を再度設けるなどの改善の余地があると考えられる。

表29 回答に要した時間の分布

10分まで	1599	77.1%
10分から20分	347	16.7%
20分から30分	63	3.0%
30分から40分	22	1.1%
40分から50分	10	0.5%
50分から60分	5	0.2%
1時間から3時間	26	1.3%
3時間以上	3	0.1%
合計	2075	100.0%

## おわりに

平成26年度から始まったアンケート調査は、平成30年度に、学生の意見・要望もさることながら、学生生活の実態を把握し、学生生活指導へのフィードバックを行うべく、学生生活を中心とした「学生生活アンケート調査」になってから今回で4回目となった。回答率は前回調査の約4割から大幅に上昇し約6割になった。これは学生委員会委員を中心に多くの教職員が本調査に協力くださった結果であり、ご協力に厚く御礼申し上げたい。また、「学生生活アンケート調査」の実施が定着しつつある結果ともいえるが、今回の集計についての反省点も踏まえ、今後多くの学生に回答してもらう改善策を検討し、時代の潮流に合わせた見直しをすべきだろう。同時に「学生生活アンケート調査」を継続して実施していくことにより、学生生活の充実度や大学に求められる改善点を明らかにすることに役立つことも確かであろう。そのため、本調査を次回以降も実施し、貴

重な情報を提供していくことを望む次第である。

最後に、Cerezo の回答データを統計処理し、本報告書を分担して執筆いただいた学生委員会研究部門小委員会のメンバーの皆様、及び集計作業にご協力頂いた ICT サービス部門(Cerezo 担当)の片桐重和助教に心から謝意を表したい。

#### 学生委員会研究部門小委員会

委員長 高山 和夫（経済学部）  
委 員 洞ヶ瀬 真人（人間文化学部）  
委 員 佐藤 雄己（薬学部）  
委 員 小林 正明（工学部）  
委 員 我如古 菜月（生命工学部）  
委 員 上野 貴弘（工学部）

学生委員会 委員長

鶴崎 健一

